

光関連団体国際会議 (IOA) 参加報告

光関連協会の国際連携組織である IOA (International Optoelectronics Association) の 2014 年の年会在、米国の OIDA (Optoelectronics Industry Development Association) がホスト組織になりワシントン DC で、11 月 3 日に開催された。これに当協会から専務理事の小谷他 1 名が参加したので、以下に報告する。

IOA は 1996 年に当協会がホストとなり ICOIA (International Coalition of Optoelectronic Industry Associations) として始まり、6 年前から IOA と名称を変えて、年会は今年で通算 19 回を数える。メンバーは発足時には 4 団体であったが、現在は 9 団体である (OIA (オーストラリア) は一昨年退会)。

今回の IOA 年会は、OIDA の年間行事 (OIDA フォーラム及び OIDA ワークショップ) に時期を合わせて開催された。今回は、EPIC (欧州)、KAPID (韓国) 及び OpTec-Net (ドイツ) は不参加であった。以下に順を追って紹介する。



IOA 参加メンバー

会議会場は OIDA 内の会議室で、全参加メンバーによる「各国／地域の光産業動向と昨年の活動」、「各国／地域の技術ロードマップと技術開発の動向」などの報告と討議が行われた。初めに発表した OIDA は、米国の産業動向やロードマップなどを報告し、光産業全体では 2011 年以降毎年 2% 程度増加しており、着実に増大していると強調した。また、自動車関連、3D センシング、バイオフィotonics などの動向をトピックスとして紹介した。さらに、シリコンフォトンicsなどのロードマップについても概説した。

当協会からは、年間活動の概要と光産業動向調査の結果の詳細を平成 25 年度光産業技術に関する報告書に基づいて発表した。また、超低消費電力型光エレクトロニクス実装システム技術開発に関する国家プロジェクトの概要と進捗についても紹介した。

PIDA（台湾）は、毎回世界と台湾の光産業の生産高を発表しており、今回は 2011 年～2013 年の実績、2014 年の見込み、2015 年・2016 年の予想を示した。台湾における光産業の主な成長率は、以下の通りである。全体では、2011 年が+13%、2012 年が-9%、2013 年が-5%（金額：71B 米ドル）と引き続きマイナス成長となった。しかし、2014 年は+5%とプラス成長を見込んでいる。2013 年の製品分野別成長率で見ると、OFC（無酸素銅）コンポーネンツが+24%、自動車用イメージモジュールが+16%、光治療用デバイスが+13%などが順調に成長していた。LED や太陽電池の産業動向についても詳しく紹介された。

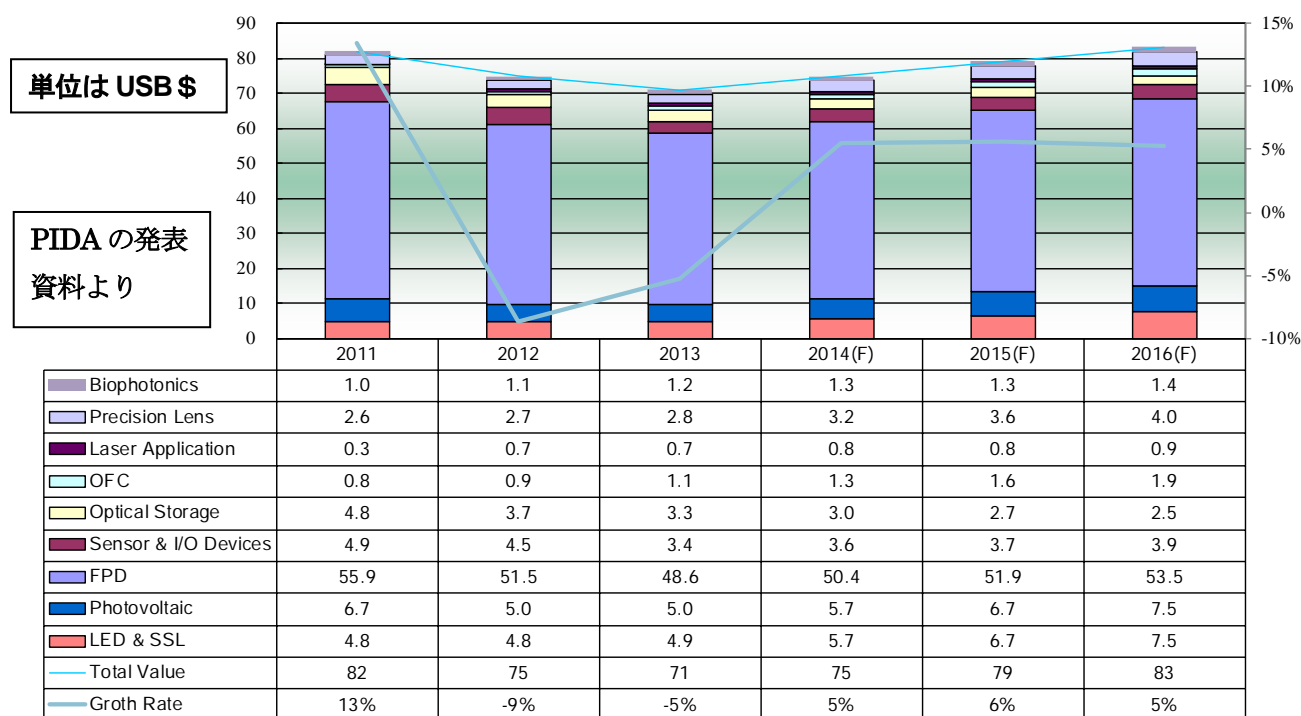
SOA（スコットランド／イギリス）では、Electronics Scotland および SSN（Scottish Sensor Network）とともに STN（Scottish Technology Network）として研究開発や技術ロードマップ作成活動においてネットワーク的な活動を行っている。今回は、2013 年の国内産業動向を報告した。防衛および石油・ガス分野で全光産業の 2/3 の売り上げを占めていた。

SLN（スイス）ではレーザ加工分野が盛んであり、2013 年は全光産業の売上の 30%を占めるまでになったが、売上額自体に大きな変動はない。太陽電池分野の市場急減に伴い、相対比率が増大しているのである。

CPC（カナダ）は、光産業全体の動向、輸出入の動向などに加え、太陽電池分野の動向について詳説した。カナダの太陽電池も、総出力で見ると順調に成長しているが、価格の低下が著しく、市場規模としては必ずしも増大していないことが明らかになった。

11 月 4 日には、OIDA フォーラムが、11 月 5 日には OIDA ワークショップが OSA 内で開催され、IOA メンバーも参加した。両日とも 100 名程度の参加者であった。

来年の年会は、PIDA がホスト組織となり、6 月に台湾・台北市で開催される予定である。



PIDA が発表した台湾の光産業の動向